

友好都市提携 40 周年 新潟市代表团中国・ハルビン市訪問報告

新潟市代表团 参加議員

新潟市議会 副議長 佐藤 誠

〃 議員 美の よしゆき

〃 議員 石附 幸子

訪問日程 令和 2 年（2020 年） 1 月 5 日から 1 月 7 日まで

- 1 月 5 日（日） 新潟空港～ハルビン太平国際空港
ハルビン国際冰雪祭 歓迎レセプション
- 1 月 6 日（月） 2020 ハルビン国際冰雪都市 持続可能な発展フォーラム
（新潟市長による発表あり）
友好都市提携 40 周年を期した「覚書」の調印
太陽島雪像博覧会 視察
ハルビン新潟友誼園（中日友好記念館）視察
ハルビン市長表敬訪問・歓迎夕食会
- 1 月 7 日（火） ハルビン太平国際空港～成田空港～東京駅～新潟駅

訪問目的 友好都市提携 40 周年を記念してハルビン市を訪問する新潟市代表团（団長：中原市長）に議会の代表として参加し、両市の親善を深めるとともに今後の更なる交流発展について意見交換を行う。

訪問概要 中国黒龍江省ハルビン市に、友好都市 21 ヶ国 39 都市の代表が一堂に会し、「2020 ハルビン国際冰雪都市 持続可能な発展フォーラム」が開催され、新潟市代表团として、1 日目の国際冰雪祭、レセプションを含め 2 日間の訪問を行った。

新潟市代表团は、中原八一市長を団長に、議会代表として佐藤誠副議長、美のよしゆき議員、石附幸子議員の 3 名が同行した。

1月5日（日）

○ハルビン国際冰雪祭、冰雪祭歓迎レセプション

【概要】

ハルビン市は北緯 44 度～46 度、稚内とほぼ同じ緯度に位置し、「氷の都」とも呼ばれ、1996 年には冬季アジア大会、2009 年には冬季ユニバーシアード大会が開催されている。ハルビン市では雪と氷を貴重な資源であるという理念から、寒冷地ならではの資源と優位性を発掘し、影響力のある冰雪イベントとウィンタースポーツ競技大会を開催することで、国際的に知名度の高い冰雪観光地とウィンタースポーツ基地を建設している。

氷と雪をテーマにした「ハルビン国際冰雪祭」は 1985 年から始まったイベントで、毎年 1 月 5 日頃から 2 月末頃まで開催されている。イベント中はハルビン市内至るところに氷の彫刻や雪像が展示されるが、主な会場は「太陽島公園」「兆麟公園」、そして「冰雪大世界」の市内 3 か所である。氷彫刻や氷の建造物は色とりどりの蛍光灯や LED でライトアップされ、ハルビン市内の兆麟公園では国際的な氷彫刻大会も開催されている。新潟市代表団が訪れた「冰雪大世界」が開催される会場は、松花江の河川敷で高さ 40 メートル程の塔を中心に大規模な建造物が展示されていた。内外から多くの観光客が訪れていて、昨年度は 100 万人を超える観光客が訪れる冬の一大イベントとなっている。

その夜の冰雪祭歓迎レセプション（夕食会）は、シャングリラホテルで開催され、各都市代表団約 600 人が集った大規模な夕食会となった。新潟市代表団は、それぞれの都市から来ている方々と情報交換を行い、交流を深めた。

【所見】

中国黒竜江省の省都、ハルビン市は 1000 万人都市で、町の中央はロシア風建築・町並みが美しく保存され、その周りに高層ビルが立ち並ぶ美しい都市である。

今回訪問した、ハルビン国際冰雪祭はマイナス 30 度から 40 度という極寒の雪と氷を有効資源として、大規模で精密な氷と雪の彫刻や建造物を美しくライトアップした一大エンターテインメントイベントとして発信し、経済効果も高い取り組みに感銘を受けた。

また、冰雪祭の建造物等に使われる氷は、松花江より切り出した厚さ 30～50 センチの天然の氷を使用しているが、その透明な氷がレンガのように山積みされていて、松花江の美しさが想像され、環境問題に力を入れているハルビン市の取り組みを垣間見ることができた。



（写真）ハルビン国際冰雪祭の様子



（写真）氷点下のハルビン国際冰雪祭会場

1月6日（月）

○「ハルビン国際冰雪都市 持続可能な発展フォーラム」

【概要】

午前中、ハルビンを友好都市とする 21 カ国 39 の都市の代表が集い、「ハルビン国際冰雪都市 持続可能な発展フォーラム」が、松北シャングリラホテルで開催された。

新潟市代表団団長の中原市長は、来賓第 1 位の席に着座し、40 年間の新潟とハルビンの友好の歴史、現在新潟市が行っている環境施策を紹介した。

各都市の発表の皮切りとして行われた、孫喆（そん てつ）ハルビン市長の発言は「習近平思想に基づき、ハルビンは雪とその寒さという概念を変換し、雪は自然の贈り物と捉え、冰雪を活かした観光・スポーツの発展を行った。冬季間に、『冰雪祭』『太陽島雪像博覧会』等 4 つの観光イベントを行い、観光客数 9,380 万人、内ハルビン空港利用者 2,000 万人。観光収入 1,570 億元（約 2 兆 5 千億円）を生み出した。ハルビンはロシアとの玄関口でありヨーロッパへ続く。経済においては総合保税区を備え対応。文化においてはヨーロッパと東洋の融合を目指している。そのため、『1 政治・企業・民間の交流の促進』『2 冰雪祭の交流からの都市間交流』『3 技術や資源の相互補完』を推進している。」との事であった。

会合の最後には、登壇された全員から同意を得られた「ハルビンプロポーザル」が採択された。その後、20 に及ぶ都市間の調印式が行われ、新潟市はハルビン市との間で、今後の両市の発展、相互理解と友好関係を深めていく事を確認し、青少年と教育、観光交通、経済、専門分野の交流について、今後の指針を孫喆ハルビン市長と調印した。

【所見】

新潟市に比べ中国の事業には極めて政治的一貫性が認められるが、今回の訪問を通じて感じたことは、中国は国家戦略「一带一路」を拡張した、北極海に関する基本政策「北極政策白書」（北極海を通る航路を「氷上のシルクロード」として「一带一路」と結びつける方針）で、地球温暖化で氷が解け、船舶の通航や資源開発が容易になった北極海で権益拡大を目指している。

一方で、国際都市を目指す新潟市としては、地方の裁量の範囲において、ハルビンを中心とした多くの友好都市と関係を持てるメリットは多く、中国に留まらず、これら友好・姉妹都市から来られる日本の(空)港町としての機能強化は進めるべきと考える。



（写真）フォーラムで中原市長（団長）発表の様子



（写真）フォーラム会場スクリーン前

○新潟市ハルビン市覚書調印および表敬訪問

表敬面会者：孫 喆（そん てつ） ハルビン市長
方政輝（ほう せいき） ハルビン市秘書長
曹 儒（そう じゅ） ハルビン市外事弁公室主任
孫永斌（そん えいひん） ハルビン市商務局長
任延輝（にん えんき） ハルビン市農業農村局長

【概要】

今後の両市の発展、相互理解と友好関係を深めていく事を確認し、青少年と教育、観光交通、経済、専門分野の交流について、今後の指針を孫喆ハルビン市長と調印した。

夕方から、孫喆ハルビン市長を表敬訪問し、午前中に締結した覚書について、より詳細な打ち合わせを行い、大きく2つの確認を行った。

1つ目は、未来への友好の礎として、青少年の交流事業を強化する確認が行われた。孫喆市長からは「早速計画を立案する」とのメッセージを頂いた。佐藤誠副議長から孫喆市長に、その意義を議会側として理解した旨を伝えたところ、「議員団の皆さんの賛同を得られたことは、大変頼もしい。」との返答を頂いた。

ハルビン市では、低所得世帯の子どもを外事弁公室の費用で、海外体験させる事業があることが、曹儒外事弁公室主任（日本では部長職に該当）から示された。

2つ目は、ハルビン新潟空港間の増便及び農産物の航空輸送の促進が話し合われた。ハルビン市側は友好都市間のハブとしてハルビン空港の活用を求められ、新潟市側からは日本国内観光の入出国口としての活用と、現在輸出禁止されている新潟産の食品加工品（酒・米菓など）の早期解禁への協力を求めた。

【所見】

今後のハルビン側からは、事業に従った低所得世帯の子どもが来越する可能性がある。よって、受入れの際には、ゆいぽーとの利用による宿泊費の軽減処置、水族館等への入館への便宜など、新潟市として出来る最大の支援を望む。その結果、子ども達が成長し新潟市にもう一度行きたいと言う思いを持って頂ければ、将来の友好の懸け橋となるであろう。

ハルビン空港までは新潟市から2時間。そこからヨーロッパ等、世界各国のハルビンの友好都市に移動出来る可能性が示されたことは、市民の国際化、加えて新潟県並びに隣県に対して、新潟空港を活かして、首都圏に一極集中する空港事情の緩和が期待される。



（写真）孫喆ハルビン市長（右）と覚書の調印



（写真）孫喆ハルビン市長（中央）を表敬訪問

○太陽島雪像博覧会・ハルビン新潟友誼園・中日友好紀念館

午後からは、新潟ハルビン友好の象徴とも言えるハルビン新潟友誼園があるハルビン市太陽島景区を視察した。太陽島とは、ハルビンに於ける大規模な公園であり、国有企業が管理している。ハルビン新潟友誼園はその中の日本庭園部を指し、中日友好紀念館が建てられている。

(1) 太陽島について

前述の「ハルビン国際冰雪都市 持続可能な発展フォーラム」で、孫喆ハルビン市長の発言にあった4大観光事業の一環である、「太陽島雪像博覧会」の会場でもある。特筆すべき点として、ハルビン太陽島風景区資産経営有限公司 解恒才 総工程師（総責任者）によれば、この雪像博覧会の入場料は250元（約4,000円）、年間30万人の来場者があるとの事。これが、公園の管理資金に充てられる。



(写真) 太陽島雪像博覧会の様子



(写真) 太陽島雪像博覧会の雪像

(2) ハルビン新潟友誼園について

平成元年に新潟市の友好都市提携10周年事業として整備された日本庭園である。冬季は閉鎖される為、視察の際は、積雪の中に日本の石灯籠と堀をイメージした、水路と思われる部分が認識される程度であった。

門の表札に書かれた「哈爾濱新潟友誼園」の揮毫が当時の若杉元喜市長であったことを見た時、子供の頃からハルビンと新潟市が繋がっていた事、小学生の時、黒竜江省との交流事業で、小学校で中国の事を学んだ事を思い出し、国際交流の長さとともに子どもに与える影響について、改めて覚書の重要性を認識した。



(写真) ハルビン新潟友誼園の門



(写真) 雪景色の庭園

(3) 中日友好記念館について

ハルビン新潟友誼園内に設置されている中日友好記念館にも入り、昨年、両市の職員・市民の交流の中で、友好記念館の修復工事が行われた事を確認した。惜しむらくは、新潟市の紹介パンフレットが10年前のものであり、今回の再オープンに合わせて新しいパンフレットを設置頂くよう、団員である観光・国際交流部長に要請し対応頂けることとなった。

入口の表札には、当時の長谷川義明助役の揮毫があり、長谷川元市長が助役時代からハルビン市との関係を持っていたことが確認出来た。建物は中央のダイニングスペースを囲み、展示室、和室などが配置され、壁内装や障子などきちんと修復されていた。



(写真) 中日友好記念館の内部



(写真) 中日友好記念館展示の新潟市の写真

○総括

本市は1979年にハルビン市と友好都市提携を行い、昨年で40周年を迎えた。新潟市としては、提携10周年・20周年など節目の年に代表団の相互派遣を行ってきたが、昨年12月にはハルビン市長を団長とするハルビン市代表団が本市を訪問し、ハルビン交響楽団の公演が行われた。そして今回提携40周年を記念し、新潟市代表団として、今後の両市の交流指針となる交流の「覚書」の調印を行った。

本市はハルビン市の友好都市として一番古くから提携し、1979年以来、青少年、観光、経済、環境保全、医療、水道技術、公園緑地等多くの分野で交流を重ねてきた。その歴史の上において、今回のハルビン市長との「覚書」の調印式及び表敬訪問では、友好的で互恵の精神をもって丁寧な会話を重ねていたことが印象的であった。

私たち新潟市議会の代表として、「世界冰雪都市 持続可能な発展フォーラム」や表敬訪問の場に立ち合い、国レベルでは複雑な政治課題を孕み、戦争の歴史を抱えながらも、都市レベル、議会レベル、市民レベルでの交流の重要性を体感した。また、市長がフォーラムで発表した「新潟市の環境保全の取り組み」は、ハルビン市の今後の環境問題の解決に大きな示唆を与えるものとなったと思う。

新潟ハルビン友好都市締結40周年に参加して、その歴史の深さを思い、次の世代に繋ぐ責務を痛感した。特にハルビン市から見れば、正に古き良き友人であり、来賓第一位の席を新潟市に与えられたのも、その歴史の重さである。今回は、着任2年目の若き両市長の調印式に同席出来たことを誇りに思い、同行した若い職員達が、この事業をしっかりと続けていけるよう、議会として見守り続けていく必要性を痛感した。

末尾に、外国特有の、逐次変わるタイムスケジュールに都度対応頂いた新潟市と議会事務局スタッフ、現地で献身的対応を頂いたハルビン市政府外事弁公室の方々、そして、我々3人を送り出して頂いた全議員に感謝と御礼を申し上げたい。